

# 千年の森便り No.154

2016.05.12

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

事務局長 伊藤道男

[sennenomori@hotmail.co.jp](mailto:sennenomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

### 4月29日(祝) 臨時活動日

参加者は、新井通子、秋元、伊藤、岩崎、大原、根本の6名。  
午前中は全員でギャップ地区の植生調査を行い、20コマのうち12コマを実施した。  
調査対象種数を30種に絞ったため比較的確認が容易で、また調査者が多数のため短時間で実施できた。(詳細は別途報告)  
また 日々植生が変化するこの時期の変化を捉えようと島内を観察した。開花が確認できたものは、ギンラン、エビネ、ツクバネウツギ、コバノガマズミなどだった。  
ユウシュンランは残念ながら確認できなかった。  
トビは、ひな一羽が確認できた。(伊藤)



ギンラン 4/29

### 5月8日(日) 晴

参加会員+家族 28名；秋元、新井通子、伊藤、鶴沢、及川、大原、苅米、久我夫妻、栗山、坂本、高橋洋子、中田夫妻と子供たち、根本、福島、藤川、細谷、真鍋、水柿夫妻、村野、山口夫妻、応募参加者12名；市原の久保田・村上さん、里山カレッジ卒業の友塚・勝山・手戸・松尾・稲葉夫妻に14年組の市原さん、東京の浅野さん、習志野の中島さん、森林インストラクターの小池さんも参加され、総勢40名の大盛況でした。



新緑のハイキング日和に恵まれ、午前中は県民の森から豊英島までのハイキング、午後は各グループに分かれて豊英島案内ツアー、植生調査、野鳥や植物の観察など楽しみました。皆さん健脚コース踏破、お疲れ様でした。

整備班は、ハイキングに参加せず、祠山参道の危険木を伐採整備でした。有難うございました。(真鍋)

### ○初夏のハイキング

恒例となった初夏のハイキングは、さわやかな薫風を感じながら、清和県民の森から林道を豊英島まで歩いた。新緑を背景に、ヤマツツジの赤、ジャケツイバラの黄色、ミズキの白など彩かな花々や、トウキョウサンショウウオの卵のうなど見ることができた。またオオルリの鳴き声を聞きなしたり、サシバが出現するなど、この時期ならではの充実した自然観察会となった。また、橋の上でのヤッホーコールの体験や豊英島を一望できる眺望ポイントへ立ち寄るなど、プラスアルファのお楽しみも好評だった。(伊藤)



ジャケツイバラ



ヤマツツジ



マルバウツギ



新緑の豊英島

一番心に残ったのはサシバを観察できたことです。サシバをあんな近くで見れたのは夢のようでした。今回参加していなかったら、何年も先になっていたかと思います。楽しいハイキングでした。ありがとうございました。



注) 当日松伏橋で多くの参加者がサシバを見て感動しましたが、撮影できたのは中1の智貴君だけでした。下の「昆虫を捉えたモウセンゴケ」画像も智貴君撮影です。



タツナミソウ



シラン



コケリンドウ



クラマゴケ



昆虫を捉えたモウセンゴケ

初夏の豊英島と清和県民の森を楽しむハイキング

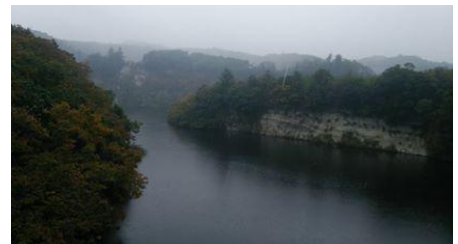
当日も話がありましたが、同じ場所に時期を変えて訪れると季節ごとに違った景色が見られ、新しい発見があります。私も豊英島は3回め。次の機会が今から楽しみです。今回のハイキングでは望遠鏡で覗いたジャケツイバラの姿が印象に残りました。枝先が丸まっていて、まるで刺のある鞭が巻かれているようでした。また、螺旋を描いて上昇、悠然と空を舞うトビとサシバの姿にも見とれてしまいました。写真は吊橋から撮影した豊英湖。(友塚) (ちば里山\_People の Face-Book【イベント参加報告】5/8 記事「ちば千年の森をつくる会」より転載)



5月8日



1月17日



2015年11月14日

注)ちば里山\_People の Face-Book は 2015 ちば里山カレッジ修了者有志の情報交換ページです。

## ○豊英島案内記

午前のハイキングに引き続き午後は初参加の方を中心に島内の案内をしました。

話の主な内容は次の通りです。

豊英島の地形と川廻しの話。

東京湾に下る小糸川の源流域であると同時に太平洋に下る分水域に近い事。

北総とは異なる植生、カクレミノの大木、ウラジロガシの株立ち樹形、クロモジと雨城楊枝など。

寒冷気候時代の生き残り植物であるヒメコマツの現状と保護活動について。

炭焼きが盛んだった時代から50年経過した現在の森林の違いを生物多様性の観点から見る。

松枯れ病蔓延以前の稜線の様子とかなり前に枯損した赤松の心材の臭い。

バナナに似た甘い香りを漂わすホオノキの花を見ながらホオノキの多面的な利用について。

シカの食害防止ネットの内側と外側の違い。林床にアシビの若木が多い理由。

ツチアケビの生き方について等々、自分の関心事ばかりを一方向的に話しましたが、皆さんが熱心に聞いて下さいました。（坂本）

## ○ギャップ地区植生調査

調査の全員参加と労働の軽減措置として「前年度全区集計で進出数165種あった物のうち上位30種を先にチェックする」という新しい方法の提案がなされ、臨時調査日(4月29日)と今回(5月8日)試行しました。狭い1区に5、6人が入り植物を踏まないように細心の注意を払いながら(でも踏まずにやるのは不可能ですが)生長段階で微妙に姿かたちが違う物も多いので見極めるのは苦労もありますが楽しみでもあります。皆熱心に作業を進め全20区を終了しました。この方法の長所短所を検討して次回に繋げていくこととなります。

次回からは30種を除いた物の調査を開始しますが、もしこの狭い所でまた探し回れば植物たちの悲鳴が聞こえて来そうです。また先駆植物(アカメガシワやカラスザンショウなど)の生長が著しく、鹿が食べないアセビは地面を殆ど覆って来ているためこれらの処遇も考慮されています。(新井通子)

## ○ツチアケビのモニタリングと保護

マダケ林に1株、千年広場南に3株、巨木林保護柵内に3株、合計7株発芽していました。マダケ林は2014年以来2年ぶりの発芽、島入口には昨年に続き発芽がありません。食害防止金網を撤去していたマダケ林の株は金網で保護しました。近年発芽しても夏から秋にかけて株が衰退する傾向がみられるので、今年も毎月モニタリングを継続し、モニタリング記録「豊英島のツチアケビ」に整理しホームページに掲載します。(真鍋)



竹林に2年ぶりに1株現れたツチアケビ

## ○シュンランにさく果

保護柵内のシュンラン20個体以上を観察したところ、そのうちの2個体に合わせて3個のさく果(種子)ができていました。うまく種子ができていれば種子の散布源になると思います。(福島)



シュンランのさく果

## ○野鳥の記録

ハイキング中の林道と島内を合わせて当日確認した種類です。案内の片手間に記録したので、何種か抜け落ちがあるものと思いますが、この時期に見られる種類はほぼ揃っていたと思います。この日のハイライトは松伏橋で見た鷹の一種サシバのペアです。青空をバックに悠々と舞っていました。島内のトビの巣には雛が誕生していました。カワウ、トビ、サシバ、コゲラ、モズ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、オオルリ、キセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 18種 (坂本)



トビの雛2羽、雛の後方に餌の魚

## ○危険木伐採

ホコラ山付近の危険木の伐採を行いました。作業は苅米、山口、根本が担当しました。ヒヤリハットはありませんでした。密集した木々は天高くそびえ、株立ちした幹や枝に枯死したものが多く台風や大風による倒木、枝の落下が心配されていました。昨年よりマーキングしておいた危険木の幹や枝を伐採したのでホコラ山付近は明るさを増しました。心配されたネズの生育にも良い結果が得られると思われれます。

今後の注意として、ホコラ山坂道の手の届かない梢に、皮一枚でぶら下がっている枯れ枝がありますのでホコラ山参道は通行禁止とします。(根本)

### —豊英島と清和県民の森ハイキングレポート—

勝山茂実

ロッジ村にキャンプに来たのが娘が幼稚園の時だったそして昨年再び訪れた里山カレッジの時も雨で何と不運な事なんだろうと思っていた。しかし今日は晴れで散策には絶好のタイミング。豊英島の説明がスタッフから有ったが島内の散策に同行は遠慮し昨年教えていただいた鳥の巣を見つけに行く。

何と有りました去年と同じ所の松の木の枝にしっかりと。親鳥は居なかったが雛鳥が二羽です産毛に包まれ丸くキョトンとした目が何とも可愛く感じた。これはラッキーな事と思いスマホを向け撮ろうとしたが生憎逆光(池からの反射)で有りおまけに操作が未熟で写りが明かない記憶に残すだけでも十分なので諦めた・・・

島内の居る?来る?動物は二ホンジカ・二ホンザル・アライグマ等で有りシカは泳いで島に来るそうので何とも野生の動物はワイルドだ!

鳥類はトビ・ミサゴ・サシバ・カワウ・コゲラ・アオサギ等。鳥は日本や関東周辺が生息地なので多くが飛来するだろう。ちば千年の森は定例活動日が月1回なので確認も大変と思う。ちなみに野鳥情報関東版が参考に成るかな?

山野草は盗屈防止の為書きません!?この豊英湖はヘラブナ釣りの一級ポイントが沢山有り多くのヘラ師きます。それに混じりボートで上陸するかもです、本当はあまりにも沢山の種類が有り覚えられないからです・・・

ある程度この日の目的が達成でき歩いていると「布袋竹」ホテイチクが有った。名前の由来は節間が七福神の布袋の腹に似ている事からだそうだ。釣り竿に適し輸出までしたと云うからまさに布袋様かもです。この様に乱獲される動植物は地球上にどの位あるのだろう悲しい事だ。

次に目に入ったのが「姫小松/五葉松」で有った。この松は山岳地帯に生息し低地には生息出来ないと思っていたのは小生の無知。松はバイオリンやピアノの響板や腹板に使われた。そして乾燥したこの材は狂いが無い為に鋳物も木型に使われた。同じく赤松の生息も見られたが本数は少なく年々減っているようだ。

回りながら思ったのだが豊英島は周囲と繋がっていたので今後どの位の差異が出てくるかの調査も面白いかも?

「ピー！ピー！」と思って見ていたら笛の音が聞こえ集合の様だ……。『ちば千年の森をつくる会』の皆さま有難うございました。

これからもお元気でこの森を守って行って下さい。（しげみ勝山）

### ちば千年の森をつくる会の皆さまへ

市原正則

この度は、初夏の豊英島・清和県民の森のハイキングに参加させていただきありがとうございました。快晴のハイキング日和に恵まれスタートすると間もなく新緑の美味しい風が吹き渡り気分爽快にしてくれました。森の中から聞こえるオオルリの囀り、目に青葉で視界良好ネイチャーセラピー効果も満点でした。植物観察は大好きで講師の方には身近な受け応えをいただきとても良かった。多くのメモも大変貴重なものとなりました。可憐な蕾のイチヤクソウ、元気いっぱいに育つヒメコマツ、珍しい（食虫植物）モウセンゴケも見られ自然大好き人間の集いは宝物となりました。

### 南房総の森を整備して永住の地に

浅野 史裕（ふみひろ）

本日ハイキングに参加しました。有難うございました。

自分は東京に住んでいますが、君津の北部に1700坪の山の土地を買いました。ゆっくり自分や仲間の力を借りて、そこを整備しつつ、井戸を掘り、薪を自給し、畑を作り、工房を建て、10年後くらいを目標に自邸を建てたいと思っています。

現状は、てっぺんを削って100坪ほどの平らな部分を作り、そこまでクルマで上がれるよう道をつけました。そして土地の中を歩いて廻れるよう笹狩りをしているところです。（現状まだ土地の端まで行けてません(^\_^;)）そこで、斜面が崩れず、効率よく薪が取れる山にするためにどうしたらいいのか勉強したく、本日参加させていただきました。

実際今日のハイキングはその目的とは少し違った主旨でしたし、あまりの皆さんの知識量の多さに会話に入れず少々戸惑ってしまいましたが(^\_^;)、優しく声を掛けて下さった方がたくさんいらっしゃって、1日楽しめましたし、また勉強にもなりました。

今日をきっかけにまた里山の世界を勉強させていただけたらと思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

## お知らせ

### ○6月の活動日

6月19日（日）、9時30分 君津市清和自然休養村管理センター集合、シカ個体数調査 環境整備（水辺）、ヒメコマツ周辺下刈、危険木処理、植物・野鳥・昆虫調査など。  
水辺の清掃に軍手を、下刈り（灌木）に手鋸を持参願います。